

詩のおもしろさを見つけてよう

年

組

番

名前

◇ 本田さんのクラスでは、次の作品を読んでそのおもしろさについて話し合いました。詩を読んであとの問いに答えなさい。

### 海と太陽

小川未明  
おがわみめい

海は昼眠る、夜も眠る、  
ごうごう、いびきをかいて眠る。

昔、昔、おお昔

海がはじめて、口開けて、

笑ったときに、太陽は、  
目をまわして驚ろいた。

かわいい花や、人たちを、  
海がのんでしまおうと、

やさしく光る太陽は、  
魔術で、海を眠らした。

海は昼眠る、夜も眠る。  
ごうごう、いびきをかいて眠る。



一、この詩について気づいたことやそのおもしろさについて次のような話し合いが行われました。①～⑤にはあてはまる言葉を書きなさい。

〔話し合いの記録〕

本田	この詩のおもしろいところは、「眠る」という表現 <small>ひょうげん</small> を使っ て、① ) を人にたとえているところだと思います。
小川	ぼくもその表現はおもしろいと思います。ごうごう、 ② ) をかいて眠る ① ) は、本当に人みた いです。同じ表現を ③ ) 使っているところも おもしろいです。
川村	声に出して読むととてもリズムがよく感じられます。た えば、「海がはじめて口開けて」のところは、④ ) 音と ⑤ ) 音を組み合わせています。
中山	何よりも、海や太陽に注目して詩にしたところがおもしろ いです。ぼくは海の動きに注目し、いつも動いているの でねているなんて思ったこともなかったけど、作者はその 音に注目して「眠る」と考えたんですね。 (話し合いは続く)

二、話し合いで、中山さんがはつ言した「その音」とは、何の音  
ですか。

( ) ( )

詩のおもしろさを見つけよう (答えの例)

一、この詩について気づいたことやそのおもしろさついて次のような話し合いが行われました。①～⑤にはあてはまる数を書きなさい。

〔話し合いの記録〕

本田 この詩のおもしろいところは、「眠る」という表現ひょうげんを使って、(海)を人にたとえているところだと思います。

小川 ぼくもその表現はおもしろいと思います。ごうごう、(いびき)をかいて眠る(海)は、本当に人みたいです。同じ表現を(くりかえし)使っているところもおもしろいです。

川村 声を出して読むととてもリズムがよく感じられます。たとえば、「海がはじめて口開けて」のところは、(七)音と(五)音を組み合わせています。

中山 何よりも、海や太陽に注目して詩にしたところがおもしろいです。ぼくは海の動きに注目し、いつも動いているのでねているなんて思ったこともなかったけど、作者はその音に注目して「眠る」と考えたんですね。

(話し合いは続く)

二、話し合いで、中山さんがはつ言した「その音」とは、何の音ですか。

(海)

ものがたり  
物語を読もう

□年 □組 □番 名前

◇ 川島さんの学級<sup>きゅう</sup>では、次の「ニひきの蛙<sup>かえる</sup>」という物語を読んで、思ったことを発表<sup>はつぷよう</sup>しあうことになりました。これを読んで、あとの問いに答え<sup>と</sup>みましょう。

緑<sup>みどり</sup>の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」  
と緑の蛙がいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美<sup>うつく</sup>しいと思っているのかね。」  
と黄色の蛙がいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起<sup>お</sup>こりません。  
ニひきの蛙はどうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙はとびかかるのがとくいでありました。

黄色の蛙はあ<sup>※</sup>とあしで砂<sup>すな</sup>をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒<sup>さむ</sup>い風がふいてきました。

ニひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負<sup>しょうぶ</sup>をつける。」

「だって、緑の蛙は土にもぐりました。」

「いまいったことをわすれるな。」

「だって、黄色の蛙ももぐりこみました。」

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱しもばしらが立ったりしました。そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしよに、緑の蛙が目をさしました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中におかたってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といって、土から出てきました。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

「去年きょねんのけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいました。

「待まて待まて。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいました。

二ひきの蛙は、からだから泥土どろつちをおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんとびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなる  
ものであります。  
(新美南吉「二ひきの蛙」による)

※あとあし…うしろあし

一、なぜ蛙たちは春がきたとわかったのでしょうか。

(

)

二、「もう春だぞ。」と言った蛙はどちらでしょう。

(

)の蛙

三、鈴木さんは、この物語をしようかいつることにしました。

□にあてはまる言葉を本文から選んで書きなさい。

わたしは、この二ひきのかえるのやりとりがおもしろいと感じ  
ました。ア のがとく意な緑のかえる。それに

対して黄色のかえるイ で ウ をけとばし

ます。二ひきのかえるの様子が目にうかびます。

また、「とぶんとぶんとびこみました」という音がおもしろい表現だと思  
います。体があまり大きくない感じが出てい  
ます。

終わり方も「エ がよくなるものです。」と、

話を短くまとめているところが気に入っています。



感想文をくらべて読もう

年

組

番

名前

◇ 石川さんのクラスでは、夏休みに読書感想文を書きました。みんなです。その感想文を読み合う前に先生が「両方ともよい感想文」として次の見本をしようかいました。同じ本を読んで書かれた二人の感想文を読んで、後の問いに答えましょう。



〔福原さんが書いた感想文〕

わたしは、健児の「人は一人で生きているんじゃない。めいわくをかけても、みんなですべて生きているんだ。」という言葉がとても印象にのりました。

友だちとかかわりをもつことがながてな治。そんな治に対して健児はやさしく見守っていきます。しかし、ある出来事をきっかけとして「もうだれのことにも信じない。どうせおれは一人ぼっちなんだ」と走り出してしまった治。その時、健児はやさしく、そして力強くこのように言ったのです。

わたしは、友だちに対して、思っていることをなかなか伝えられませんが。これからは少し勇気をもって、伝えられるようにしていきたいです。



〔平野さんが書いた感想文〕

「人は一人で生きていくんじゃない。めいわくをかけても、みんなできているんだ。」この、主人公健児の言葉。わたしはこんなにはつきりと自分の意見をいうことはむずかしいと思います。でも、健児はちがいました。

健児と親友の治。たくさんのお友だちがいる健児と反対に、治はほかの人とあまりかかわりをもとうとしません。そんな治をやさしく見守る健児。しかし、卒業を明日にひかえた三月のある日。べつの中学校に進む治になげかけた健児のこの言葉。

友だちにどうしても伝えたい思いがある。勇気をもってそれを伝えるすばらしさ。友だちとの関係になやんだ時におすすめの本です。

一、福原さんと平野さんの二人とも印象に残った言葉をぬき出して書いています。その言葉を選んで書きなさい。

二、福原さんは自分のことをどのように考えているのでしょうか。次の言葉に続けて書きなさい。

友だちに対して

三、平野さんはこの本をどんな時に読んでほしいと書いていますか。前の感想文からぬき出して書きなさい。

時。

四、先生が二つの感想文について次のようにしようかと思いました。正しいと思うことには、下の（ ）に○を、正しくないと思うことには×をつけましょう。

①福原さんも平野さんも本に書かれている文章を使って書いています。（ ）

②福原さんの感想文は「ていねいなことば」です・ます」で、平野さんの感想文は言い切った形「だ・である」でわかりやすく書かれています。（ ）

③二人の感想文とも思ったことを一つも書いていません。（ ）

④二人の感想文は自分とくらべてよいところを見つけて書いています。（ ）

⑤二人の感想文は主人公について書いています。（ ）

感想文をくらべて読もう(答え)

一、福原さんと平野さんの二人とも印象に残った言葉を引用して書いています。その言葉をぬき出して書きなさい。」「はついていてもついていなくても正解( )

人は一人で生きているんじゃない。めいわくをかけても、みんなで生きているんだ。

二、福原さんは自分のことをどのように考えているのでしょうか。次の言葉に続けて書きなさい。

友だちに対して、思っていることをなかなか伝えられない。

三、平野さんはこの本をどんな時に読んでほしいと書いていますか。ぬき出して書きなさい。

友だちとの関係になやんだ

時。

四、先生が二つの感想文について次のようにしようかいました。正しいと思うことには、下の( )に○を、正しくないと思うことには×をつけましょう。

① 福原さんも平野さんも本に書かれている文章を使って書いています。( )

② 福原さんの感想文は「いいことば」です。ますで、平野さんの感想文は言い切った形「だ・である」でわかりやすく書かれています。

- ③ 二人の感想文とも思ったことを一つも書いていません。( × )
- ④ 二人の感想文は自分と比べてよいところを見つけて書いています。( ○ )
- ⑤ 二人の感想文は主人公について書いています。( ○ )